

台湾選手とコートで交流

市ソフト
テニス協会
福知山で絆深める

福知山市ソフトテニス協会(中山則男会長)は7日、台湾選手団を迎え、三段池公園内のテニスコートで交流試合をした。スポーツを通して、国を超えた絆を深めた。

城陽市制50周年行事として、6日に同市で台湾、韓国との交流ソフトテニス大会があった。大会には、福知山市協会特別会員の山口幸子さんと旧知の間柄で、ソフトテニスプレーヤーとして台湾で活躍した何金三(かきんさん)さんが参加していた。この2人が相談し、予定にはなかったが、

福知山で交流大会が開かれることに。21年にはワールドマスターズゲームズ関西2021のソフトテニス競技が、福知山市で開催されることもあり、そのPRも兼ねて行った。

台湾選手団は60歳代から80歳代までの約40人、市協会からは20歳代から70歳代の約30人が参加。勝敗にはこだわらず、ダブルスやトリプルスなどで楽しく試合をした。

合の感想やアドバイスを送り合う姿もあり、互いに笑顔で親睦を深めていた。

中山会長(67)は「台湾選手団は、非常にレベルが高かったです。」

ワールドマスターズ関西に向けて、外国人と交流する機会は貴重。台湾のみなさんにも、喜んでいただけ良かったです」と話していた。



試合の感想を伝え合う選手たち(右コートが台湾選手団)